



レコード屋放浪記

会員 近藤 亮 (68期)

1 私は、中学生の頃から音楽が大好きで、CDやレコードを集めるのが趣味である。高校生だった頃、わざわざ昼食を抜かして、浮いた昼食代でCDを買っていたのも今では懐かしい記憶である。最初はCDを集めていたが、音楽の趣味がソウルやジャズに変化していくうちに、次第にその対象がレコードに変わっていった。今ではすっかりレコードファンであり、暇さえあればレコード屋通いをしている。

私が集めているのはレアグループのレコードである。レアグループとは、主に70年代以降の音楽のうち、発表当時は評価されなかったが、「踊れる」という視点から、現在のリスナーに発掘され、再評価された楽曲を指す。一般的にはソウル、ジャズ、ラテンに分類される楽曲が多い。レアグループは、その名のとおり誰も知らない「レア」な音楽を発掘することに重点があるため、私のようなレアグループファンは、CD化されていないレコードを蒐集の対象としている人が多い。レコードを発掘することは、新しい作品を発掘することと、レコードの棚からレコードを取り出す所作をかけて、ファンの間では「掘る」と呼ばれている。

2 レコードを買いに行く前は、レコード屋のブログで、セール情報や新入荷情報などについて下見をすることが不可欠である。ブログをチェックすることは、バイヤーおすすめレコードを知るいい機会であるし、中古レコードの価格相場を勉強するという意味でも重要である。ただ、この段階で見知らぬレコードがあったとしても、レコード屋に向かうまでの移動時間に内容を想像する楽しみや、レコード屋で試聴して内容がバッチリだった時の興奮が失われてしまうことから、決して動画サイト等で予習をすることはしないようにしている。

レコード屋では、新入荷の棚からはじまり、300円以下の安価なレコードが入っている通称「エサ箱」と

呼ばれる段ボールまで、店の隅々までチェックすることが重要である。特にエサ箱の中から、内容の良いにもかかわらず、知名度の低さから投げ売りされている掘り出し物が見つかることがあり、安かろう・悪かろうという固定観念にとらわれずに、隈なくチェックすることが肝要である。

レコード屋では無数のレコードが売られており、つい目移りしてしまうが、全てを試聴する時間的余裕はない。そこで、レコードをチェックする際は、まずレコードの発売元の会社やレーベルで当たりを付けることが多い。個々のレコード会社やレーベルには音楽的特色があることが多く、その名称から内容をある程度予想することができるからである。また、当該レコードが録音されたスタジオやバックミュージシャンの顔ぶれも内容を予想する上で参考になる。こうした予想のとおり、内容の素晴らしい作品を掘り当てられた時の喜びは、非常に大きいものである。これこそがレコードを「掘る」醍醐味なのである。

3 今のご時世、音楽は配信で購入する時代であるから、レコード蒐集をしている人は少ないかもしれない。しかしながら、レコード蒐集には、上述のように音楽配信にはない楽しみがあるから、是非ともレコード蒐集を始めてみることをお勧めする。



部屋には蒐集したレコードが…